認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成２５年１０月
大野市（福井県）

全体総括

〇計画期間；平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1．計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市の中心市街地の状況は、第1期計画の認定以降、「越前おおの結ステーション」の供用開始や「城下町東広場」の整備、「越前大野駅前」の整備など、中心市街地に不足していた来訪者をもてなす機能が設けられ、市民や観光客がまちなかに集い交流する基盤施設が充実し、中心市街地の利便性や魅力は大きく向上した。

さらに、結ステーション等の供用開始に併せて市民総参加により開催した「越前大野城築城430年祭」は、本市の魅力を全国に発信し交流人口の増加に寄与すると共に、新たな市民主体の取組が創出されるなど、これからのまちづくりに向けて機運を高めた。

結果、第1期計画終了時点で、交流人口の増加や歩行者通行量といった目標については、達成することができ、中心市街地の活性化に向けて着実に歩みを進めている。

他方、市全体及び中心市街地の人口減少や少子化・高齢化、事業者の高齢化や後継者不足は引き続き進行しており、公共投資を呼び水とした民間の投資を促すには至っておらず、第1期計画策定時からの課題は残されたままといえる。平成 25 年 3 月には中部縦貫自動車道の一部（勝山－大野IC）が供用開始され、さらに 26 年度の市制 60 周年や 30 年度の福井国体の開催、現在取り組んでいる越前おおのブランドの推進など、本市を取り巻く交通網の整備や大規模イベントが控えている。

このような残された課題への対応や環境変化等を踏まえ、第1期計画の中心市街地活性化に向けたコンセプトを継承しながら、今一度、まちづくりの原点に立ち帰り、多様な人々が集う、活気に満ちた魅力あるまちを目指している。

2．計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した　　②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

平成 20 年 7 月に内閣総理大臣の認定を受けた「大野市中心市街地活性化基本計画」（以下、「第

1期計画」）に位置づけた68事業は、平成25年3月の計画期間終了時において、30事業が完了、38事業が実施中となっている状況である。

第1期計画における本市の取組として、平成20年10月から22年9月にかけて整備された「越前おおの結ステーション」は、旧小学校跡地に、まちなか観光・商店街情報等を提供する「輝（キラリ）センター」、地元の逸品を広く取り扱う店舗とフリーマーケットが開催可能な「越前おおの結楽座」、歴史的建造物を移築し休憩所等として利用する「藩主隠居所」、「多目的広場兼駐車場」等を備えた観光・交流拠点を担っている。また、平成23年度には、市が購入した工場跡地について、城下町の東の玄関口として駐車場兼多目的広場、物産販売や交流スペース、観光案内所等の機能を有した「城下町東広場」を整備した。

これら結ステーションや城下町東広場等の整備により、市民や観光客にとって中心市街地に訪れやすい環境がもたらされ、交流人口の増加や近隣の歩行者通行量が増加し、中心市街地の活性化に寄与していると考えられる。

さらに、平成20年度に大野市景観条例、21年度には大野市屋外広告物条例を制定するとともに、修景助成事業の実施により景観に配慮した建物が年々増加（第1期計画中に8件）し、寺町通りについては石畳風の整備を行うなど、城下町の歴史ある町並みに配慮した大野らしい景観の形成に取り組んでいる。

また、平成23年度には、保健、医療、福祉のサービス拠点施設である「結とぴあ」を整備し、サービスのワンストップ化を実現し、中心市街地における市民の利便性が高まっている。

民間による取組として、結ステーションの整備に併せて開催した「越前大野城築城430年祭」は、記念パレードなどの実行委員会主催事業（8事業）や、越前おおの“とんちゃん”祭などの市民自主事業（28事業）等、年間を通して市民総参加によるイベントを行った。市民や企業の力を集結することで、市民意識の高揚が図られたと共に、祭の開催により中心市街地への観光入込み数が約30万人増加した。

商業の面においては、平成22年度に空き店舗対策プランを策定するなどし、第1期計画期間中に新たに中心市街地内の空き店舗に8事業所が入居すると共に、商店街における新たなソフト事業（五番商店街での竹あかり事業等）の展開、商店主がガイドを務める「まちかどのキラリさん事業」や「食べ歩き見て歩きマップ」の発行など、来訪者をもてなす取組や中心市街地の回遊性を高める取組が創出されている。他方で、第1期計画で予定していたハード事業である旧Fマート（空きビル）の再生が実施出来なかった点は今後の課題といえる。

総合的に、第1期計画で掲げた2つの目標指標は、平成24年度に達成しており、日々の生活の中でもまちなかを歩く人が増えていることから、着実に中心市街地の活性化に向け進んでいると考えられる。

3．活性化が図られた（図られなかった）要因（大野市としての見解）

活性化が図られた要因としては、まず、約5年間という限られた時間の中でハード、ソフトの両面で着実に事業を実施出来たことが挙げられる。これは、旧中活法時に基本計画を策定していなかった当市において、法改正後の内閣総理大臣の認定に向け、民間と行政が足並みを揃え十分に協議し、互いに連携しながら取り組むことが出来た成果といえる。

（主な施設整備事業）

・越前おおの結ステーション（実施主体：市、商工会議所）

・城下町東広場（実施主体：市）
・越前大野駅前整備（実施主体：市）
・亀山公園整備（実施主体：市）
・その他、街なみ環境整備、水のみえるまちづくり事業等（市）
・結とぴあ〔大野市保健・医療・福祉サービス拠点施設整備〕（実施主体：市）

4．中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

中心市街地活性化協議会としては、第1期計画に位置づけられた事業推進のため、行政・タウンマネージャー等と密に連携を図りながら、適宜、助言・支援等を行ってきた。その結果、第1期計画に位置づけられた事業が概ね順調に実施されたこと、計画の進捗度等に応じて、当初予定されていた以外の民間開発事業や活性化イベント事業が実施されたことなど、第1期計画の推進が中心市街地の活性化に相当程度の効果があったと評価している。

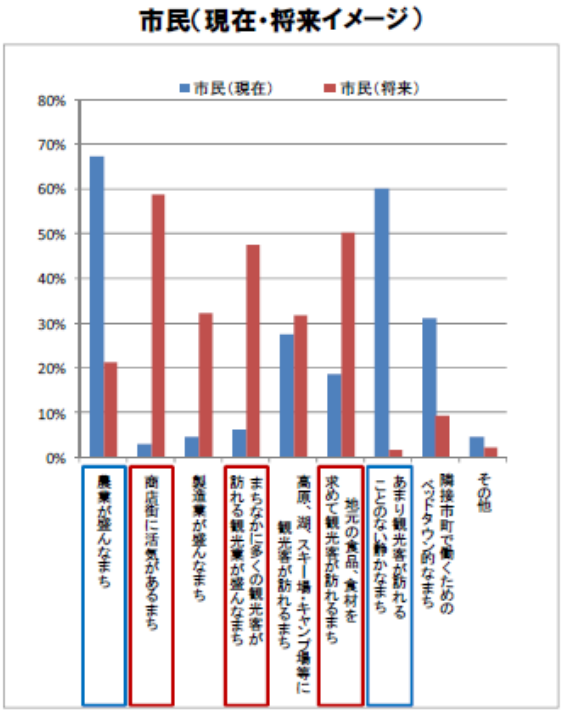
5．市民からの評価、市民意識の変化

①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

本市では、第2期計画の策定にあたり、事業所のニーズを把握・反映するため、中心市街地エリア内の事業所 221 社を対象とした「事業所アンケート」（回答 109 社、回収率 49.3%）を、平成 24 年 5 月に実施した。

事業所アンケートからは、5 年前との売上の変化について約 76%の事業所で売上が減少しているものの、売上に占める観光客の割合については、「増えた」、「変わらない」の合計が約 50%を占めるなど、中心市街地全体の経済活動は上昇していないものの、交流人口の増加により一定の効果が得られていると考える。



また、地域ブランド関連調査として平成 24 年 6 月に実施した市民アンケート（市民 601 人回答）では、「大野市民の経済の側面からみた大野市の現在と将来のイメージ」として、現在のイメージは、共通して「農業の盛んなまち」「あまり観光客が訪れることのない静かなまち」が強くなっているものの、将来のイメージは、共通して「商店街に活気のあるまち」、「まちなかに多くの観光客が訪れる観光業が盛んなまち」、「地元の食品、食材を求めて観光客が訪れるまち」が強くなっている。

このことから、市民は中心市街地が活性化している姿を望んでおり、継続的に取り組む必要があると考えられる。

６．今後の取組

第1期計画については、平成 25 年 3 月をもって計画期間が終了したものの、本市としては平成 23 年 2 月に策定した「第五次大野市総合計画－ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち－」の基本施策の中で「中心市街地の活性化」が位置づけられ、引き続き中心市街地の活性化を推進していくこととしている。また、平成23年10月には越前おおの中心市街地活性化協議会より、第1期計画終了を見据え次なる計画を策定するよう、また、次の計画では民間が主体となった取組を推進するよう要望を受けた。このような背景から、平成 25 年 4 月からはじまる「第2期大野市中心市街地活性化基本計画」（以下、「第2期計画」）を策定し、平成 25 年 3 月 29 日付けで内閣総理大臣の認定を受けた。

第2期計画のコンセプトについては、歴史ある当市の中心市街地の特性を踏まえ、基本的な考え方は踏襲し、コンセプトは第1期計画に引き続き「原点への回帰～人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して～」としている。方針については、高齢化の進展を踏まえ、誰もがまちなかに訪れ、まちなかを周ることのできるまちの実現を目指し「公共交通の充実」を新たに追加し、主な方向性については、第1期計画で整備された拠点施設を有効に活用すべくハード事業主体からソフト事業主体へと転換し、平成 25 年 1 月に設立されたまちづくり会社「㈱結のまち越前おおの」が民間の取組を推進していくことが期待されている。

主な取組としては、商店街を回遊させる取組や憩いの空間を創出する「新にぎわい商業ゾーン形成事業」、「食」、「歴史」などのテーマの連携による交流人口の拡大を図る「観光まちなみ魅力アップ事業」、まちづくり会社が主体となり遊休不動産を利活用する「中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業（仮称）」、市役所本庁舎について結とぴあとの連携性を重視し「市民が集い、憩い、学ぶ」を基本理念に建て替え住民サービスの向上を図る「新庁舎整備事業」、旧庁舎について観光客用駐車場や防災機能を備えた多目的広場を整備する「城下町南広場整備事業（仮称）」、大野藩家老屋敷を保存整備する「歴史的建造物保存整備事業」、さらに越前おおのブランド戦略に基づく各種事業を位置づけ、中心市街地の活性化を推進していく。

（参考）

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				（数値）	（年月）	
まちなか観光による交流人口の増加	関連施設の年間入込み客数（中心市街地主要5施設）	80,234人（H19）	100,000人	133,031人	H24 暦年	A
商店街を中心としたまちなか生活の充実	1日当たりの歩行者通行量（休日6地点）	2,001人（H19）	2,400人	2,607人	H24	A

注）達成状況欄　　（注：小文字のａ、ｂ、ｃは下線を引いて下さい）

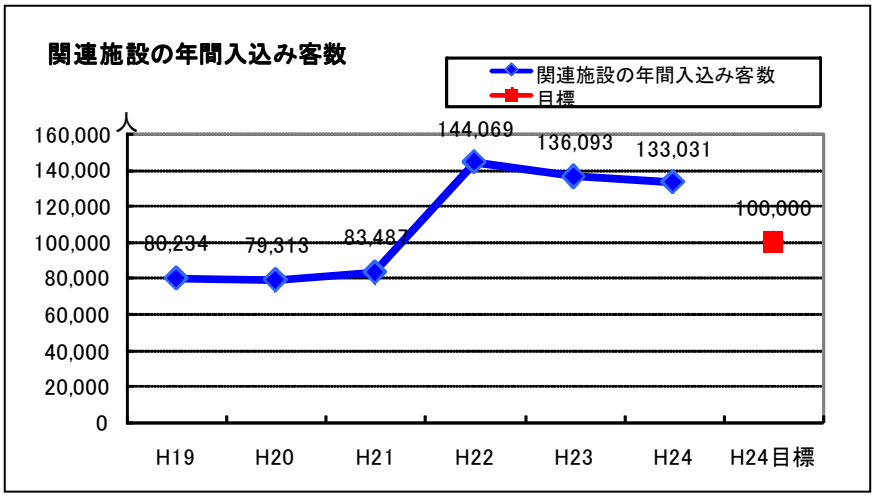
Ａ（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）
ａ（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）
Ｂ（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。）
ｂ（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）
Ｃ（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）
ｃ（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

個別目標

目標「まちなか観光による交流人口の増加」

「関連施設の年間入込み客数」※目標設定の考え方基本計画 P64～P67 参照

1．目標達成状況の総括



年	（位：人）
H19	80,234 （基準年値）
H20	79,313
H21	83,487
H22	144,069
H23	136,093
H24	133,031
H24	100,000 （目標）

※調査方法；関連施設の入込み客数

※調査月；1 月から 12 月実施、翌年 1 月取りまとめ

※調査主体；大野市

※調査対象；平成大野屋、越前大野城、民俗資料館、武家屋敷旧内山家、藩主隠居所

【総括】

○ 「まちなか観光による交流人口の増加」については、目標値 100,000 人に対し最新値 133,031 人（平成 24 年）と目標を達成（越前大野城築城430年祭を開催した平成 22 年は 144,069 人）。

○ 目標を達成できた要因としては、越前大野城築城430年祭終了後の平成 23 年も、例えば、調査対象の平成大野屋では入込客数が約2倍（対19年比）、越前大野城では約1．6倍（対19年比）となるなど、イベントの効果が一過性で終わっていないこと、観光客などの来訪者が必ず立ち寄る場所、集う場所としての越前おおの結ステーションや城下町東広場が機能していることが考えられる。

2．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．越前おおの結ステーション整備事業（大野市、大野商工会議所）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年 4 月　結ステーションの基本計画を策定 平成 20 年 10 月～平成 22 年 8 月　施設ごとに順次着工 平成 21 年 4 月 輝センター、大野商工会議所会館、まちなか交流センターが供用開始 平成 21 年 8 月 多目的広場兼駐車場Aが一部供用開始 平成 22 年 4 月

	越前おおの結楽座、時鐘、多目的広場兼駐車場A・Bが供用開始 平成 22 年 9 月　藩主隠居所（無料休憩所）供用開始
事業概要	旧小学校跡地に、まちなか観光・商店街情報等を提供する「輝（キラリ）センター」、地元の逸品を広く取り扱う店舗とフリーマーケットが開催可能な「越前おおの結楽座」、歴史的建造物を移築し休憩所等として利用する「藩主隠居所（無料休憩所）」、「多目的広場兼駐車場」等を備えた交流・観光拠点を整備した。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:5,485 人の増 H24 最新値:10,816 人の増 歩行者通行量 H24 目標値:111 人の増 H24 最新値:541 人の増
達成状況	入込み客数　達成　　歩行者通行量　達成
達成した（出来なかった）理由	当市に訪れる方の多くは自家用車やバスにより訪れるが、駐車場を設けた等ことによる中心市街地へのアクセスが改善された点、物販施設や情報発信施設、休憩所等を備えたことによる利便性が向上した点が考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	結ステーションの整備により、近隣の歩行者通行量が目標値を超えて増加し、特に結ステーションから七間通り（七間朝市が開催）へと来訪者が流れている。また、近隣の平成大野屋や越前大野城への入込み数が増加するなど波及効果がみられる。
越前おおの結ステーション整備事業の今後について	実施済み

②. 武家屋敷旧内山家活用事業（大野市）

支援措置名及び支援期間	―
事業開始・完了時期	平成 9 年度～
事業概要	武家屋敷を解体復元した旧内山家において、年間を通じたイベント・サービスを実施する。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:1,713 人の増 H24 最新値:3,612 人の減
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	越前おおの結ステーションの整備により、旧内山家周辺の来訪者は増加したものの、効果的に誘導することが出来なかったように考える。要因としては、効果的な情報発信や来訪者にとって魅力ある事業が展開出来ていなかったことが考えられる。
計画終了後の状	本事業は、武家屋敷及び庭園を復元し展示しているのみならず、屋敷内で

況（事業効果）	の抹茶サービスや囲炉裏での焼餅などの体験を提供し、まちなか観光を目的とする来訪者の期待に応えている。
武家屋敷旧内山家活用事業の今後について	継続実施

③. 越前大野城ライトアップ事業（大野市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	【実施中】平成 4 年度～
事業概要	越前大野城を夜間にライトアップすることにより、イメージアップを図る。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:1,371 人の増 H24 最新値:9,080 人の増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	結ステーションの整備により中心市街地に訪れやすい環境が整った点、亀山公園の園路等の整備により亀山山頂にある越前大野城へ登りやすい環境が整った点が考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	ライトアップすることで夜空に城が浮かび上がり、来訪者に対し城下町を印象づけている。越前大野城築城 430 年祭や園路の整備により、越前大野城の入込み客数も増加。
越前大野城ライトアップ事業の今後について	継続実施

④. (i)平成大野屋オリジナルブランド開発事業、(ii)平成大野屋伝承料理提供事業、(iii)平成大野屋事業（㈱平成大野屋）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	【実施中】(i)平成 19 年度～、(ii)平成 19 年度～、(iii)平成 8 年度～
事業概要	まちなか観光拠点施設「平成大野屋」を拠点にして、大野の産品や歴史にこだわったまちづくり会社のサービスを提供する。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:10,769 人の増 H24 最新値:46,299 人の増
達成状況	達成
達成した（出来	結ステーションの整備による波及効果が考えられる。

なかった）理由	
計画終了後の状況（事業効果）	結ステーションの関連施設となった平成大野屋においては、㈱平成大野屋が、地元産にこだわった加工品開発や物品販売、地元に伝わる料理をメニューとして提供。越前おおの結楽座にて物品販売も展開し、市内取引業者の充実を図り、来訪者にとって魅力ある施設となっている。
平成大野屋オリジナルブランド開発事業等の今後について	継続実施

⑤. (i)まちなか遠足誘致促進事業、(ii)シルバーエイジまちなか散策誘致事業、(iii)観光セールス事業（大野市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業開始・完了時期	【実施中】(i)平成 15 年度～、(ii)平成 20 年度～、(iii)平成 19 年度～
事業概要	小・中・高校生のまちなか観光を中心とした遠足、高齢者及び団塊世代のまちなみを巡る散策ツアー、バス会社等に対するツアーなどを企画提案し、様々な年齢層の誘客を進める。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:5,485 人の増 H24 最新値:10,816 人の増 歩行者通行量 H24 目標値:111 人の増 H24 最新値:541 人の増
達成状況	入込み客数　達成　　歩行者通行量　達成
達成した（出来なかった）理由	まちなか遠足誘致促進事業については、歴史が感じられ碁盤目のわかりやすい町並みやまちの安全性が好評で参加校数が増加した。シルバーエイジまちなか散策誘致事業は、東日本大震災や高速道路の休日上限1，000円割引制度の廃止の影響により利用者が減少した。 中心市街地全体の歴史的な魅力の向上や越前大野城築城 430 年祭の開催、観光セールス事業を着実に取り組んだ成果と考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	中京、関西及び関東方面における観光商談会に積極的に参加するとともに、学校や老人ホーム、公民館等へのPRを実施し、越前おおのへの来訪者が増加傾向にあり、一定の効果が得られている。
まちなか遠足誘致促進事業等の今後について	遠足誘致促進事業、シルバーエイジまちなか散策誘致事業のほか、まるかじり越前おおの提供事業、来て見てつくる越前おおのガイドブック作成事業について、統合し「越前おおのおもてなし事業」として実施。

３.今後について

第1期計画では、越前おおの結ステーションや城下町東広場等の、中心市街地への来訪者が必ず立ち寄る、集う場所が整備されました。結果、越前おおの結ステーションを起点とした一部のエリアについては賑

わいが生じつつあるものの、今後は周辺エリアにも波及していくことが求められる。

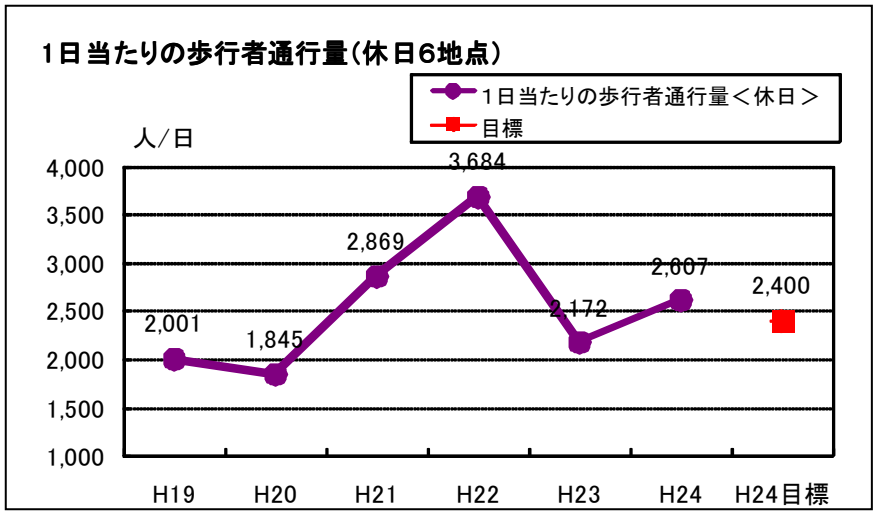
　そのためには、①訪れたくなるまちとなるよう歴史的な町並みや商店街の魅力をさらに高める、②まちなかでの回遊性が高まる仕掛けづくりを行う、③滞在時間が延びるよう来訪者がくつろげる空間を設ける、などの取組が必要。さらに、第2期計画においては、「越前おおのブランド戦略」に基づき本市及び中心市街地の魅力をさらに磨き上げ、広く情報発信し地域の価値を高めていく取組を行う。歴史的なまちなかの魅力を高め、回遊性と満足度を向上させ、来訪者と地域住民による多彩な交流を温める中心市街地をめざしていく。

個別目標

目標「商店街を中心としたまちなか生活の充実」

「１日当たりの歩行者通行量（休日６地点）」※目標設定の考え方基本計画 P68～P73 参照

１．目標達成状況の総括



年	（位：人）
H19	2,001 （基準年値）
H20	1,845
H21	2,869
H22	3,684
H23	2,172
H24	2,607
H24	2,400 （目標）

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月；平成 23 年 10 月実施、11 月取りまとめ

※調査主体；越前おおの中心市街地活性化協議会

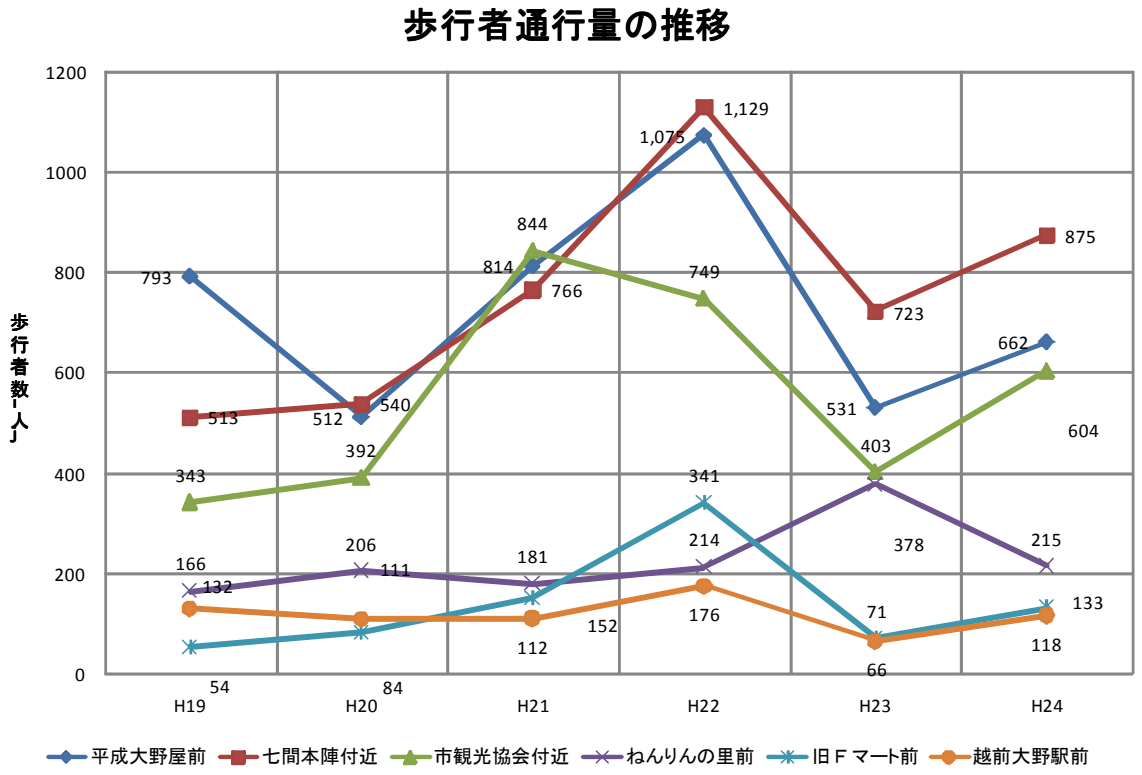
※調査対象；平成大野屋前、ねんりんの里前、七間本陣付近、観光協会付近、旧Ｆマート前、越前大野駅前の休日朝 7 時から夜 7 時までの歩行者通行量

【総括】

○「商店街を中心としたまちなか生活の充実」については、目標値2,400人に対し最新値2,607人（平成24年）と目標を達成。また、第1期計画期間の 5 ヶ年の平均値も 2,635 人と目標を達成している。目標を達成できた要因としては、越前おおの結ステーションや城下町東広場の整備、商店街等で取り組まれるイベント（ワゴン市やテントマーケットなど）の定着が考えられる。

○ 他方、歩行者通行量は増加傾向にあるものの、七間通り（七間本陣や市観光協会付近）や平成大野屋前の増加に比べ、その他の地点の増加は少ないといえる（以下、グラフ参照）。これは、越前おおの結ステーションや城下町東広場に訪れた方が、一定エリアの回遊に留まっており、中心市街地全体に波及出来ていないものと考えられる。

○ 要因の一つとしては、第1期計画に予定していた「五番商店街活性化対策事業（仮称）」が、事業推進に向けたコンセンサス形成に時間を要し実現に至らなかったことが挙げられる。当該事業等については、平成 23 年 5 月から専門的知識を有するタウンマネージャーを設置し、平成 25 年 1 月には、まちづくり会社「株式会社結のまち越前おおの」が設立されるなど事業化に向けて検討を進めているところである。



２．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．五番商店街活性化対策事業（地元で構成するまちづくり会社）

支援措置名及び支援期間	未実施
事業開始・完了時期	未実施
事業概要	空き店舗（旧Fマート）で、五番商店街再生の核となる店舗及び公共的施設を整備する。
目標値・最新値	歩行者通行量 H24 目標値:212 人の増 H24 最新値:79 人の増
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業化に至ることが出来ず、目標値も達成することが出来なかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 21 年度において、五番商店街全体を活性化させるための元気再生計画策定に取り組み、平成 22 年度においては、経済産業省の支援を受けて事業着手に向けた検討を実施、平成 23 年度からは招聘したタウンマネージャーの助言を受けながら事業化に向けて検討を進めたものの、事業化には至らなかった。イベント開催時等には活用されているものの、事業効果はあげられていない。

五番商店街活性化対策事業の今後について	継続して事業化を検討

②. 越前おおの結ステーション整備事業（大野市、大野商工会議所）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年 4 月　結ステーションの基本計画を策定 平成 20 年 10 月～平成 22 年 8 月　施設ごとに順次着工 平成 21 年 4 月 輝センター、大野商工会議所会館、まちなか交流センターが供用開始 平成 21 年 8 月 多目的広場兼駐車場Aが一部供用開始 平成 22 年 4 月 越前おおの結楽座、時鐘、多目的広場兼駐車場A・Bが供用開始 平成 22 年 9 月　藩主隠居所(無料休憩所)供用開始
事業概要	旧小学校跡地に、まちなか観光・商店街情報等を提供する「輝(キラリ)センター」、地元の逸品を広く取り扱う店舗とフリーマーケットが開催可能な「越前おおの結楽座」、歴史的建造物を移築し休憩所等として利用する「藩主隠居所(無料休憩所)」、「多目的広場兼駐車場」等を備えた交流・観光拠点を整備した。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:5,485 人の増 H24 最新値:10,816 人の増 歩行者通行量 H24 目標値:111 人の増 H24 最新値:541 人の増
達成状況	入込み客数　達成　　歩行者通行量　達成
達成した（出来なかった）理由	当市に訪れる方の多くは、自家用車やバスにより訪れるが、駐車場を設けたことによる中心市街地へのアクセスが改善され点、物販施設や情報発信施設、休憩所等を備えたことによる利便性が向上した点が考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	結ステーションの整備により、近隣の歩行者通行量が目標値を超えて増加し、特に結ステーションから七間通り(七間朝市が開催)へと来訪者が流れている。また、近隣の平成大野屋や越前大野城への入込み数が増加するなど波及効果がみられる。
越前おおの結ステーション整備事業の今後について	実施済み

③. (i)まちなか遠足誘致促進事業、(ii)シルバーエイジまちなか散策誘致事業、(iii)観光セールス事業（大野市）

支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業

支援期間	
事業開始・完了時期	【実施中】(i)平成 15 年度～、(ii)平成 20 年度～、(iii)平成 19 年度～
事業概要	小・中・高校生のまちなか観光を中心とした遠足、高齢者及び団塊世代のまちなみを巡る散策ツアー、バス会社等に対するツアーなどを企画提案し、様々な年齢層の誘客を進める。
目標値・最新値	入込み客数 H24 目標値:5,485 人の増 H24 最新値:10,816 人の増 歩行者通行量 H24 目標値:111 人の増 H24 最新値:541 人の増
達成状況	入込み客数　達成　　歩行者通行量　達成
達成した（出来なかった）理由	まちなか遠足誘致促進事業については、歴史が感じられ碁盤目のわかりやすい町並みやまちの安全性が好評で参加校数が増加した。シルバーエイジまちなか散策誘致事業は、東日本大震災や高速道路の休日上限1，000円割引制度の廃止の影響により利用者が減少した。 中心市街地全体の歴史的な魅力の向上や越前大野城築城 430 年祭の開催、観光セールス事業を着実に取り組んだ成果と考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	中京、関西及び関東方面における観光商談会に積極的に参加するとともに、学校や老人ホーム、公民館等へのPRを実施し、越前おおのへの来訪者が増加傾向にあり、一定の効果が得られている。
まちなか遠足誘致促進事業等の今後について	遠足誘致促進事業、シルバーエイジまちなか散策誘致事業のほか、まるかじり越前おおの提供事業、来て見てつくる越前おおのガイドブック作成事業について、統一し「越前おおのおもてなし事業」として実施。

④. ＪＲ越美北線ラッピング列車運行事業（大野市公共交通活性化協議会）

支援措置名及び支援期間	地域公共交通活性化・再生総合事業
事業開始・完了時期	【実施中】平成 22 年度
事業概要	JR越美北線の列車の車体に大野市のイメージに合ったデザイン（3種類）を施したラッピング列車を運行する。
目標値・最新値	歩行者通行量 H24 目標値:97 人の増 H24 最新値:14 人の減
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	JR越美北線 越前大野駅の利用者数は、増加傾向にあるものの歩行者通行量は減少し目標を達成しておりません。要因としては、近年増加している駅利用者数の内訳として定期券の利用は増えているものの一般利用者数（観光客等）は停滞しており、観光客の利用が伸び悩んでいる点が通行量の減少に至ったと考えられる。（市民は調査地点とは異なる位置の駐車場

	を利用するため、調査地点の歩行者通行量の増加には繋がらない）
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度にデザイン及び運行計画を決定し、平成 22 年度からラッピング列車の運行を開始、平成 22 年度の乗車人員は 355 万人を超え、前年対比 105%となるなど効果が得られている。車内ラッピングで沿線の見どころPRや利用者に対し食べ歩き見て歩きマップとの引き換え助成を行うなど、魅力の向上を図っている。
ＪＲ越美北線ラッピング列車事業の今後について	継続実施

３.今後について

商店街において暮らしに必要なサービスが、十分に揃っているとはいえない。また、中心市街地や市全体の高齢化が進展し、自由に移動することが困難となる移動制約者の増加が危惧され、このことは、まちなかに人が集い、楽しむことのできる空間の形成を目指すうえで解消すべき課題といえる。

第2期計画では、「誰もが安心して歩いて暮らせるまち」、「住み続けたくなる便利で快適なまち」を目指し、各商店街において実施する取り組みや㈱結のまち越前おおのが実施する事業によりサービスの向上を図っていく、また、「誰もがまちなかに訪れ、まちなかを周れるまち」の実現を目指し、公共交通の充実や公共交通と連携した取り組みを推進していく。